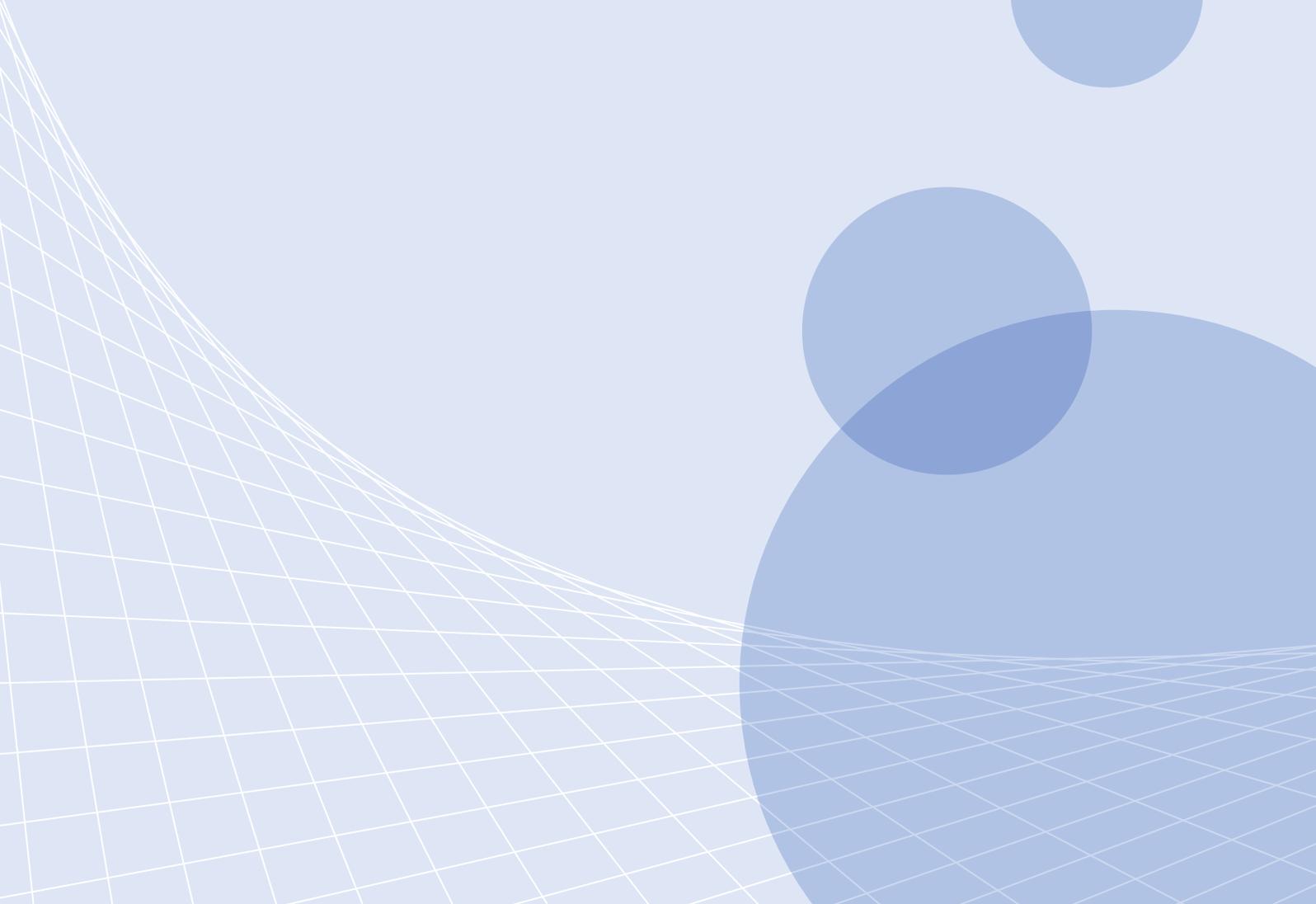


第1章

調査の概要



1 調査の目的

児童・生徒の体力が低下している状況に鑑み、東京都の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の名称

「平成29年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）」

3 調査校数

	対象校数[A](校)	実施校数[B](校)	実施率[B/A](%)
小学校	1,282	1,282	100.0
中学校	619	619	100.0
中等教育学校	6	6	100.0
高等学校(全日制)	173	173	100.0
高等学校(定時制・通信制)	55	55	100.0
特別支援学校	62	43	69.4

※ 区立義務教育学校については、小学校及び中学校それぞれに入れている。

4 調査の対象

校種	学年	男子(人)	女子(人)	計(人)	
小学校	第1学年	50,747	47,382	98,129	
	第2学年	50,380	47,287	97,667	
	第3学年	49,698	46,904	96,602	
	第4学年	49,446	46,507	95,953	
	第5学年	48,317	45,318	93,635	
	第6学年	46,145	43,468	89,613	
中学校	第1学年	37,761	35,306	73,067	
	第2学年	37,909	34,951	72,860	
	第3学年	38,261	35,468	73,729	
中等教育学校	課程前期	第1学年	475	480	955
		第2学年	458	478	936
		第3学年	459	471	930
	課程後期	第1学年	426	491	917
		第2学年	428	443	871
		第3学年	423	457	880
高等学校	全日制	第1学年	21,165	21,339	42,504
		第2学年	20,441	20,751	41,192
		第3学年	19,632	20,382	40,014
特別支援学校	高等学校 定時制・通信制	第1学年	1,903	1,466	3,369
		第2学年	1,651	1,259	2,910
		第3学年	1,616	1,202	2,818
		第4学年	946	536	1,482
	小学部	第1学年	87	58	145
		第2学年	82	48	130
		第3学年	95	51	146
		第4学年	121	57	178
		第5学年	108	52	160
		第6学年	126	50	176
	中学部	第1学年	192	109	301
		第2学年	185	104	289
		第3学年	199	101	300
	高等部	第1学年	1,000	452	1,452
		第2学年	963	475	1,438
第3学年		837	396	1,233	
総合計		482,682	454,299	936,981	

5 調査の方式

都内公立学校の児童・生徒を対象として全都的な調査を行う。

ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童・生徒については、その障害の状態を考慮して、また、高等学校定時制課程及び通信制課程においては、在籍している生徒の年齢や実態等を考慮して、参加の是非を適切に判断する。

6 調査事項

(1) 児童・生徒に対する調査

ア 体力・運動能力に関する調査
新体力テストにより実施する。

	1	2	3	4	5		6	7	8	
	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	シャトルラン 20m	50m走	立ち幅とび	投げソフトボール	投げハンドボール
小学校段階	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△
中学校段階	○	○	○	○	選択		○	○	△	○
高等学校段階	○	○	○	○	選択		○	○	△	○

イ 生活・運動習慣等の実態に関する調査

生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査を実施する。

(2) 学校に対する質問紙調査

児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る取組に関する質問紙調査を実施する。

7 調査実施期間

6月を体力テスト実施月間とする。

8 調査結果に関する注意事項と説明

- (1) 調査の集計・分析において、体力・運動能力調査、児童・生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の回答を精査した。
- (2) 本調査の結果においては、平均値が必ずしも調査結果の全てを表すものではなく、標準偏差などの情報と併せて総合的に結果を分析し、評価することが必要である。
- (3) 生活・運動習慣等調査と学校質問紙の回答結果（百分率）は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位までで示しているため、百分率の合計が100%にならないことがある（複数回答を除く。）。
- (4) 「複数回答可」の設問の回答結果（百分率）は、該当設問に何らかの回答をした全児童・生徒及び全学校数を母数にして算出している。
- (5) 区市町村別調査結果については、小中学校ともに学校数が3校以上、児童・生徒数が各学年100人以上の両方の条件を満たすことを区市町村の公表基準としている。
- (6) 特別支援学校においても本調査を実施したが、児童・生徒の障害の種類及び程度が個人によって様々であることから、本報告書には学校平均値等を掲載しないこととした。
- (7) グラフでは、小学校第1学年から第6学年までを小1～小6、中学校第1学年から第3学年までを中1～中3、高等学校（全日制）第1学年から第3学年までを全1～全3、高等学校（定時制・通信制）第1学年から第4学年までを定1～定4と表している。

＜肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の算出・判定方法＞

「児童生徒等の健康診断マニュアル」から 平成27年8月25日初版発行（財）日本学校保健会
 ・標準体重(kg) = a × 身長(cm) - b
 ・肥満度(%) = [自分の体重(kg) - 標準体重(kg)] ÷ 標準体重(kg) × 100

標準体重を求める係数

年齢(学年)	男子		女子	
	a	b	a	b
6(小1)	0.461	32.382	0.458	32.079
7(小2)	0.513	38.878	0.508	38.367
8(小3)	0.592	48.804	0.561	45.006
9(小4)	0.687	61.390	0.652	56.992
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091
11(小6)	0.782	75.106	0.803	78.846
12(中1)	0.783	75.642	0.796	76.934
13(中2)	0.815	81.348	0.655	54.234
14(中3)	0.832	83.695	0.594	43.264
15(高1)	0.766	70.989	0.560	37.002
16(高2)	0.656	51.822	0.578	39.057
17(高3)	0.672	53.642	0.598	42.339

判定基準

肥満度	判定
50%以上	高度肥満
30%以上50%未満	中等度肥満
20%以上30%未満	軽度肥満
-20%超～+20%未満	普通
-30%超-20%以下	やせ
-30%以下	高度やせ

